

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/3)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	准教授	氏名	黒宮 一太
学歴	平成 9年 3月 京都大学法学部卒業 平成11年 3月 京都大学大学院人間・環境学研究科環境相関研究専攻 (修士課程) 修了 平成14年 3月 京都大学大学院人間・環境学研究科環境相関研究専攻 (博士後期課程) 研究指導認定退学				
学位	平成11年 3月 人間・環境学修士 (京都大学) 平成18年 1月 人間・環境学博士 (京都大学 人博第305号)				
専門分野	政治思想、政治哲学、社会思想、現代政治理論				
専門資格					
所属学会					
受賞	なし				
担当授業科目	学 部 日本政治論、比較社会思想論、公共哲学、デモクラシー論、ガバナンス論、総合社会学演習 ・、現代社会研究演習 ・ ・ ・、エクスターンシップ実習、社会に活かす大学での学び				
論文指導	論文指導 (卒論 : 6名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	現代社会研究演習	講義・演習・実習・実験	春・秋	11名	
	授業の概要：3年次春学期から本格的に開始された専門研究を卒業論文研究へと仕上げていくために、各回学生自身の研究内容を発表させ、学生を中心に討論させた。				
	教育活動の振り返り 教育活動の成果： 春学期の演習時から「発表内容の議論の組み立て方」「文献読解の仕方」「討論の仕方」などを丁寧に教えてきたためか、前学期に比べ、受講生のほぼ全員が討論時に積極的に発言するようになり学生同士の討論が活発になってきたように見受けられた。また、大学での学びの基本である「自学自習」の姿勢が受講生たちに身についてきた。 今後の課題： 討論への積極的な参加は見られるようになったが、「質問の質」「討論の質」においてはまだ十分ではないと考えられる。したがって、来学期「現代社会研究演習」では、上記2点の向上のための工夫をしたい。				
	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 特になし。				
・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 3年生ゼミのゼミ活動の一環として、本年度より「京都から発信する政策研究交流大会」(大学コンソーシアム京都主催) への出場を目指すことにした。本大会への出場は、出場するための「発表論文の作成」「口頭発表用スライドの作成」「質疑応答の準備」など、ゼミをとおして学生たちが身につけることになる「研究の仕方」を学ぶのに具体的目標を設定しやすく、学生たちにとっては格好の機会となったと考えられる。加えて、他大学の学生たちがどのようなテーマで研究を進めているか、また、どの水準の研究成果をあげているかなどについて学生たちが直接知る機会にもなり、大会以降の卒業論文研究の取り組みにも学生たちには良い刺激になったと考えられる。					
H26 年度 研究課題	1. 「故郷喪失」にかんする社会科学的考察 2. 近代日本のディレンマ — 「保守」という困難				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/3)

<p>平成二十六(2014)年度の 研究活動の概要</p>	<p>1. 「故郷喪失」にかんする社会科学的考察にかんして 19世紀末から20世紀前半にかけて「ニヒリズム」の考察をおこなった西洋の思想家たちの思索について文献読解を進めながら考察を進めるとともに、日本の近代、そして戦後日本のナショナリズムにかんして、鍵となる思想家の文献を手がかりに考察を進めた。その成果を単著にして発表するための準備を現在進めている。なお、その一部成果を来年度早々に共編著として刊行することになっている。</p> <p>2. 近代日本のディレンマ —「保守」という困難にかんして 日本の近代、そして戦後日本の歴史を精神史として描き直すために、鍵となる思想家、知識人の文献を読解するとともに、現代日本のナショナリズムについての考察を進めるために、国内外の文献を読解した。なお、その成果を出版物として次年度に公表する計画を進めているが、その一部成果を来年度に共編著として刊行する予定である。</p>
<p>平成二十六(2014)年度の 主な研究成果等</p>	<p>(著書) (論文) (学会報告、学会活動) (その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) (調査活動) (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) (学内活動) 教務委員会委員、大学間連携共同教育推進事業(地域資格)委員会委員、学科運営委員</p>
<p>平成二十六(2014)年度の 社会における活動</p>	<p>文部科学省大学間連携共同教育推進事業「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発」の後期成果報告の機会として実施された「第2回グローバル人材フォーラム」において、「第2部 経営者と学生のトークセッション」のコーディネーター、および「第3部 「オール京都」産学公セクターによるパネルディスカッション」のパネリストを務めた(平成27年2月27日、京都産業大学むすびわざ館(第2部:3B教室、第3部:2Fホール))</p>
<p>平成二十一～二十五(2009～2013)年度の 主な研究成果等</p>	<p>(著書) 1. 『ナショナリズムの政治学 --規範理論への誘い』、共編著、平成21年4月、ナカニシヤ出版、214p 2. 「ナショナリズム」、共著、平成21年6月、ナカニシヤ出版、『現代社会論のキーワード --冷戦後の世界を読み解く』(pp.85-103) 3. 「第13章 シビック/エスニック・ナショナリズム」、共著、平成21年8月、有斐閣、『ナショナリズム論・入門』(pp.317-337) 4. 『「リベラル・ナショナリズム」の再検討 国際比較の観点から見た新しい秩序像』、共著、平成24年3月、ミネルヴァ書房(pp.32-48)</p> <p>(論文) (学会報告、学会活動) (その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) 評論文: 1. 「脱却すべきは「戦後レジーム」への平座」、単著、平成21年7月、『京の発言』第12号(pp.36-38) 学術講演: 1. 「現代におけるナショナリズムの復興をどう考えるか」、平成22年7月、上智大学アジア文化研究所プロジェクト「ナショナリズム復興のなかの文化遺産」、上智大学 事典: 1. 「国民国家」「ゲルナー」「コーン」「トインビー」、共著、平成24年12月、弘文堂、『現代社会学事典』(pp.429, pp.353-354, pp.465, pp.926) 連載: 1. 「虚無主義の掃蕩(2) ナショナリズムを我のものにせよ」、単著、平成21年5月、『表現者』第25号(pp.80-83) 2. 「虚無主義の掃蕩(3)「エコ活動」に漂う腐敗臭」、単著、平成21年7月、『表現者』第26号(pp.84-87) 3. 「虚無主義の掃蕩(4) 天皇にかんする無思考」、単著、平成21年9月、『表現者』第27号(pp.100-103)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/3)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)</p> <p>4. 「虚無主義の掃攘(5)「民主主義信仰」との決別」、単著、平成21年11月、『表現者』第28号 (pp.98-101)</p> <p>5. 「虚無主義の掃攘(6)「無国籍者」の群れ」、単著、平成22年1月、『表現者』第29号 (pp.82-85)</p> <p>6. 「虚無主義の掃攘(7)「民主主義」がもたらした厄災」、単著、平成22年5月、『表現者』第30号 (pp.100-103)</p> <p>7. 「虚無主義の掃攘(8)近代における「革命」の錯誤」、単著、平成22年9月、『表現者』第32号 (pp.76-79)</p> <p>8. 「虚無主義の掃攘(9)国民に「徴兵」が求められるとき」、単著、平成22年11月、『表現者』第33号 (pp.84-86)</p> <p>9. 「虚無主義の掃攘(10)ナショナリズム問題の露頭」、単著、平成23年1月、『表現者』第34号 (pp.96-98)</p> <p>10. 「虚無主義の掃攘(11)「開国」に専心する無様」、単著、平成23年3月、『表現者』第35号 (pp.74-76)</p> <p>11. 「虚無主義の掃攘(12)「自由」が招いた「無縁」への恐怖」、単著、平成23年5月、『表現者』第36号 (pp.87-89)</p> <p>12. 「虚無主義の掃攘(13)国民が携えるべき「かなしみ」」、単著、平成23年9月、『表現者』第38号 (pp.65-67)</p> <p>13. 「虚無主義の掃攘(14)「地域」存立の根拠」、単著、平成23年11月、『表現者』第39号 (pp.100-102)</p> <p>14. 「虚無主義の掃攘(15)いま問うべきは独立の気力」、単著、平成24年5月、『表現者』第42号 (pp.117-119)</p> <p>15. 「虚無主義の掃攘(16)ネイションの価値を無視することの軽薄」、単著、平成24年9月、『表現者』第44号 (pp.91-93)</p> <p>16. 「虚無主義の掃攘(17)「安心」を得て国家を捨てる」、単著、平成24年11月、『表現者』第45号 (pp.116-118)</p> <p>17. 「虚無主義の掃攘(最終回)果たすべき「国民の務め」」、単著、平成25年5月、『表現者』第48号 (pp.91-93)</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>平成20年10月 人権委員会委員「平22.3まで」</p> <p>平成21年 4月 FD委員会委員「平23.3まで」 特色GP委員会委員「平23.3まで」 教育GP委員会委員「平23.3まで」</p> <p>平成22年 4月 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平25.3まで」 教務委員会委員「平25.3まで」 共通教育委員会委員「平24.3まで」 拡大人間学部改組委員会委員「平24.3まで」</p> <p>平成24年 4月 人間学研究所所員「平26.3まで」</p> <p>平成25年 4月 学科運営委員「現在に至る」</p>
	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託)</p> <p>平成22年 4月 財団法人大学コンソーシアム京都 FDフォーラム企画検討委員「平24.3まで」</p> <p>(その他)</p> <p>平成26年 2月 1. 人間学研究所公開シンポジウム「日本の大学、このごろ焦ってませんか? ~「社会に役立つ大学」の価値を問う~」、司会・コーディネーター、於: キャンパスプラザ京都第4講義室</p> <p>2. 文部科学省大学間連携共同教育推進事業「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発」における後期成果報告会「第1回グローバル人材フォーラム」第2部 企業人と学生のトークセッション、コーディネーター、於: キャンパスプラザ京都第4講義室</p>
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の社会における活動	